

# シルバーパワー海津大崎 シャトルバスガイド体験記

# 便り



第3号 平成22年4月発行

編集：海津西浜知内地域文化的景観まちづくり協議会

「桜名所百選」に選ばれている海津大崎は、今年も素晴らしかった。

花を咲かせ、四月十日・十一日は恒例の「さくらまつり」で、大勢のお客様様に感動されました。私は「マキノまちづくりネットワークセンター」に所属し、桜のシーズンは、シャトルバスのガイドとして、また、海津町並み散策のガイドとして案内をさせていただいています。

シャトルバスでの案内は、短い時間で「海津大崎のさくらの由来」「桜守の保全活動」「大崎寺の話」等をしている間に目的地に到着し、後は安全に楽しんでいただくことを伝えるのに、精一杯です。

訪れるお客様は初めての方も多く、海津についての思い出をいかに伝えるかに苦心しています。花が美しく咲いていると、お客様は感動されます。しかしそのための保全活動には地元の人々の他に、沢山の方々が携わって下さっています。人々の見えない努力に

よって春には桜が美しく咲くことを伝え、多くの方々に愛される所にするのが、ガイドとしての役目だと私は考えています。港町として栄えた海津は、町中の所々に古い町並みと現在の新しい造りとが混在し、浜辺には三百年前に築かれた石積みが、現在の生活の中に自然に生かされており「重要な文化的景観」に選ばれたポイントだと思っています。

「さくら」という植物の力を借り、歳月を重ね歴史の重みを感じる「海津」を訪れた方々から喜びと感謝の言葉を聞くと、ガイド冥利につきる思いがします。これからも、訪れる方々に海津の魅力を伝え続けていきたいと思えます。

マキノまちづくりネットワークセンター 川添



海津西浜知内  
三十六景  
其の3

## 海津大崎の桜

海津と大浦を結ぶ隧道(ずいどう)が、昭和初期に完成した。

それ以前は、水運しかない。

新しい道・誇らしい道。

そこに、一人の地方吏員は、

その思いと共に、桜を植えた。



それは、今というボランティア。

その心に皆が共感し

その後、皆で植樹が行われた。

今は、その志をガイドさんや

「桜守の会」が受け継いでいる。

まちの誇りとなる環境、それを

生み出した人々は素晴らしいが、

受け継ぐ努力もまた素晴らしい



# 若者達の シャトルバスガイド体験記

私たち高島市青年協議会有志4人は、先日10,11日にマキノ駅から海津大崎並木口までのバスガイドのお手伝いをさせてもらいました。海津大崎の桜や清水の桜、海津の町並みのことについての説明が書いてある紙をもらいそれを見ながら説明しました。地元にながら知らないことだらけで、まだまだ勉強不足を実感。海津大崎の桜の他にも、高島市にはメタセコイア並木など日本100選に選ばれた場所が13か所もあることにびっくりしました。

そんな私たちが、バスで後ろ向きになって、市外、県外から来られた大勢のお客さんに説明するのは、内容の把握・時間配分・とっさの出来事の対応など、難しいことばかりの連続でした。

それでも、バスを降りて『ありがとうございました』とお客さんを送る時に、『案内ありがとう』と、暖かく言ってもらえたことがとても嬉しかったです。

これを期にもっと、地元の事を知りたいと思いました。

(高島市青年協議会 古川)

ちょっと、私達の団体のPRを

高島市青年協議会では、一緒に活動するメンバーを募集しています!!  
漢字ばかり並んでいて堅いイメージですが、そんなことはないんです。  
お祭りでたこ焼きを焼いたり、お祭りをしたり、星空のもと映画祭をしたり、  
スポーツしたりと、みんなで一緒に楽しいことができます♪



詳しくは高島市青年協議会HP <http://homepage.mac.com/theater/tsk/index.html> からどうぞ

高島市青年協議会事務局メールアドレス [tsk.jimukyoku@ezweb.ne.jp](mailto:tsk.jimukyoku@ezweb.ne.jp) は、こちらから

## 海津大崎の桜の歴史 (びわ湖高島観光協会HPより転載)

海津大崎の桜並木は、昭和11年(1936年)6月に“大崎トンネル”が完成したのを記念してマキノ町の前身である海津村が植樹したものです。満々と水をたたえる琵琶湖の青と東山連峰の緑の間を可憐なピンクの花びらが帯状に延びる景観は、奥琵琶湖に春の訪れを告げる代表的な風物詩となっています。



この桜並木の誕生は、海津村による植樹に先立つこと5年前、当時滋賀県高島地方事務所にて道路補修をする修路作業員として勤めていた宗戸清七さん(当時37歳・百瀬村(現高島市マキノ町)故人)が作業の合間に自費で購入した若木を植えたことに端を発します。宗戸さんは当時未舗装の県道の改良や補修を日常業務とし、助手2人とリヤカーに土砂を積んで毎日巡回し、くぼみに土砂を埋め、盛り上がっている場所を削って平らにするという作業に携わっていました。そんな重労働の疲れを癒してくれたのが、道から見える澄み切った琵琶湖と沖に浮かぶ竹生島の姿でした。

愛着のある道に何か残したいと思った彼は、桜の並木があれば景色が華やかになると考え、自力で桜を植え始めました。3年後に若木が花をつけはじめると、村の青年団も協力し始めます。

彼の指示で団員がリヤカーに水や土を運び、若木がしっかりと根付くよう丹精こめて植樹されました。こうして、宗戸さんと村の若者たちが植えた桜がしっかりと根を下ろしたことが、現在の桜並木をつくるきっかけとなったのです。平成2年(1990年)3月、財団法人日本さくらの会から「日本のさくら名所百選」に選ばれ、全国から注目されるに至っています。その後も、地元の人々や関係者たちがこの桜並木を大切に育て、たび重なる豪雪や崖崩れによる被害の際にも補植し守り続けられてきました。時は移り、海津大崎の桜も樹齢70数年、かつてのような勢いはなくなってきましたが、マキノ町の誇りとも言うべき桜並木は大切に守り育てられ、後世に引き継がれようとしています。